

を祈ってやみません。

## ロシアで受けた政治教育

岐阜県 梶田利男

昭和二十(一九四五)年五月、満州黒河山神府九八四輜重隊に入隊。七月にチチハル挺身大隊に転属。八月、ハルビンで終戦、武装解除を受けて、十月に貨車に積み込まれて入ソ。十一月、タイセット地区カスターマール収容所へ入る。作業は伐採であった。

二十一年、イルクーツクにてソフホーズ農作業。

二十二年、グリシオにてブロック製造作業。

二十三年、チェレンホーポーにて炭坑作業。

食糧はエンバク、小豆、黒パン、ニンジン等満足にはほど遠い、量質ともに最低であった。

イルクーツク政治学校へ六カ月入校し、政治教育を受けた。日本人の共産党員が、マルクスから始めて、日本の旧体制打破を熱心にアジっていた。若い僕

達は、そんなものかなあと思った程度で、特に影響はなかった。あれもこれも、日本へ帰るための儀式だと割り切って行動をした。

このように現地で政治教育を受けた者がたくさんおられます。そのほとんどの人達が、帰国後半月くらいですべてを洗い流してしまっていると思います。

昭和二十四年九月、ナホトカより乗船、舞鶴上陸、復員。

## 食事は馬糧の

大豆、コウリヤン、

豆かすであった

岐阜県 古田 強

昭和十九(一九四四)年九月一日、名古屋第一三部隊入隊。九月四日、下関港より出港。九月十五日、満州第二六三部隊入隊。

昭和二十年三月一日、満州第二六三六部隊配属。八

月十五日、四平街にて終戦。十月一日、黒河を經由して入ッ。

昭和二十三年六月一日、永徳丸にて舞鶴港に入港。復員するまで約三年の抑留生活。

今、思い出しても腹の中が煮え返る。誰のために、何のために、あのような苦しい目に遭ったのか。

通説には、六十万抑留、六万人死亡となっているが、そんな数字は何の根拠もない、いかげんなものだ。根本から調査をし直すべきである。

作業は道路工事、水道管の敷設作業、セメント、石炭の貨車積み下ろし、バイカル湖にて船の荷下ろし、主にジャガイモなど野菜類、冬の伐採作業等々あらゆる作業をやらされた。

五十年たった今も時々夢に見たりするのは、伐採作業中、身体が思うように動かないため、切り倒した材木の下敷きになって死亡した仲間達を、凍りついたまま車の荷台に乗せて収容所へ連れ帰ったのだが、それがどのようなにして、どこに埋葬されたかは、我々には一切知らされないまま処分されてしまったことだ。こ

んなひどいことがあるでしょうか。ロシアの記録には何も残っていないと思うが、そのままでもいいことでしょうか。

食事とは名ばかり、大豆のスープとは、汁の中に大豆の実が数えられるほど入っている塩汁であった。豆かす、コウリヤンなど馬糧を食べさせられた。それでロシア人と同じ待遇であったとはとても思えない。

### 医務室とは名ばかりで

薬も包帯もなし

岐阜県 安江 崑三郎

大正五（一九一六）年生まれの私は、昭和十七（一九四二）年十二月に召集され、名古屋陸軍病院要員として静岡の部隊で本科教育を受け、十八年二月に名古屋陸軍病院に、衛生兵教育を三カ月受けた後、四月、釜山より満州へ渡り、南満の鞍山野戦病院に勤務しておりました。